

「野神小学校の早馬棒踊り伝承活動の取組」

1 学校名

志布志市立野神小学校

2 学年・人数

4年生から6年生（計68人）

3 日時・場所

(1) 練習の日時・場所

令和5年9月9日（土） 総合的な学習の時間（本校体育館）

令和5年9月20日（水） 体育（本校校庭）

(2) 発表の日時・場所

令和5年9月24日（日） 運動会（本校校庭）

4 伝承・活用に取り組んでいる郷土芸能について

(1) 名称：早馬棒踊り（はやまぼうおどり）

(2) 由来

歴史についての正確な記録は残っていないが、藩政時代から伝承されてきたと言われている。太平洋戦争中は一時中断されていたが、当時の草野・宮下集落の青年団が中心となって、昭和23年頃に早馬棒踊り保存会を立ち上げ復活させた。それ以降、一度も途切れることなく現在に至っている。この行事は、農耕などで使っていた牛馬をまつるためのもので、集落内の小高い丘にある「早馬どん」の石碑の前で踊りを奉納する。その後、集落内の数か所で踊りを披露する。

(3) 構成等

3尺棒を持った3人と6尺棒を持った3人が2直線を成し、計6人が1組となり踊る。曲は8番まであり、同じ動きを繰り返す。頭に鉢巻、上には浴衣と3色たすき、下には袴下と脚半を身にまとして踊る。運動会での児童は、鉢巻、法被、3色たすきを身にまとい、大きな掛け声を出しながら踊る。

5 保存会や地域との連携の具体

毎年9月の運動会の練習の時期に、棒踊り保存会の方々に来校していただき、早馬棒踊りの踊り方を指導していただいている。今年度は、第2土曜日を活用したため保存会の方の参加が増えた。本校では、この棒踊りを表現プログラムの一つとして位置付けており、正課体育の中でも練習を行っている。3学年が合同で行うという利点を生かし、毎年6年生が、4・5年生に踊り方を教えるという縦のつながりができており、棒踊り保存会の方々の指導と合わせて、地域で伝承していく体制が整っている。

6 文化財伝承・活用の取組の工夫した点

学校と地域が連携・協力しながら棒踊りを継承していくために工夫している点は、毎年、棒踊り保存会の方々に来校していただき、児童への指導をお願いしている点である。練習期間が短い中ではあるが、日程調整に快く応じてくださっている。第2土曜日と平日の午後と練習日を2回設定し、保存会の方の都合のつく日に指導していただいた。さらに、体育の表現運動として教育課程に組み込み、練習に取り組むことができている。

7 取組の様子（練習状況、発表の場等）



（保存会の方による指導）



（運動会での棒踊り発表）

8 参加児童生徒・保護者・保存会・教員等の感想・意見

【児童】

- ・ 棒踊りは難しいけれど、お父さんに教えてもらえるので、家でも練習をがんばりました。
- ・ 保存会の方に教えてもらうことができ、棒踊りがもっと上手になりました。
- ・ 法被を着て棒踊りを披露することがとてもうれしいです。みんなで協力して発表できました。

【教職員】

教員間の伝達は難しく、保存会の方の協力は本当に有り難い。来年度は、全職員で保存会の指導を受けたい。

【保存会から】

子どもたちが発表することで、保護者・地域の方々に広く知っていただくことができる。毎年楽しみにしている。

【地域の方から】

子どもたちの緊張や成長を感じることができるよい機会である。